

## 働く場における女性活躍推進事業【滋賀県】

|       |        |
|-------|--------|
| 個別事業費 | 346 千円 |
| 交付金額  | 173 千円 |

## 地域の実情と課題

- ・人口減少社会における地域・経済の活性化という観点から、女性があらゆる分野で活躍することは喫緊の課題であるが、本県では、出産・育児のために前職を離職した女性が未だ1万人を超えており、女性の活躍が十分に進んでいない状況にある。
- ・さらに、コロナ禍を経て、女性にさらに家庭での負担が増え、仕事と家庭の両立のハードルが高くなっている。
- ・県内の女性管理職割合は14.3%（令和4年県労働条件実態調査）とまだまだ低い状況にある。こうした要因の一つとして、女性が家庭の負担により、キャリアを描けていなかったり、管理職になると同じ立場の女性がおらず、相談相手がいないといった課題がある。

## 事業の特徴

- ・仕事と家庭の両立や管理職への挑戦などそれぞれのライフステージや悩みに応じた支援を実施することで、幅広く働く女性を支援。
- ・両立支援のセミナーについては、オンラインを併用しより多くの女性が参加できるよう工夫し、交流会では対面でのコミュニケーションを重視し、参集形式のみで開催。
- ・交流の中で出た意見や悩みなどを県内企業等に向け発信。

## 事業の効果

- ・セミナー、交流会とも開催後のアンケートでは参加目的を達成できたと回答した方の割合が約9割であり、多くの方が当初の目的を達成できた。また、交流会では組織の枠を超えた交流が進み、意識の向上につながったという声や気持ちの整理ができたという声が多く寄せられ、参加者の不満や悩みが軽減され、前向きになった様子が伺えた。

## 目的・目標

- 事業目標** ○セミナー参加者数 50名（実績 60名）  
○交流会参加者数 40名（実績 50名）

- ・セミナー、交流会とも目標を超え、それぞれ60名、50名の方に参加いただくことができた。
- ・今年度は交流会後に懇親会の開催を企画したり、時間を延ばすなど、交流に重点を置いたことで、組織の枠を超えた交流が一層促進され、新たな気づきを得ていただくことができた。また、交流会のワークの中で出てきた管理職の悩みを見える化するなど、参加者のモチベーションアップに加え、職場改善にもつながるアクションを起こすことができた。

## 連携団体

- 仕事と生活の調和・女性活躍推進会議しが

滋賀県商工会議所連合会/滋賀県商工会連合会/滋賀県中小企業団体中央会/滋賀経済同友会/一般社団法人滋賀経済産業協会/公益社団法人びわこビジターズビューロー/日本労働組合総連合会滋賀県連合会/滋賀県社会保険労務士会/滋賀子育てネットワーク/株式会社創/社会福祉法人しみんふくし滋賀/生活協同組合コープしが/滋賀県市長会/滋賀県町村会/滋賀労働局/滋賀県

## 今後の課題

- ・組織の枠を超えた交流により、新たな発見を得ることができたが経験やスキル不足によるプレッシャーや職場環境がまだまだ男性中心であるというような声も聞かれたことから、女性自身のスキル向上を一層支援するとともに、男性経営者や上司の意識改革を進めていく必要がある。

## 事業の概要

### 輝く女性のハッピー・キャリアセミナー

日時:令和5年11月16日(木) 9:00~12:00(集合形式)  
13:00~16:00(オンライン形式)

場所:滋賀県庁東館7階大会議室

対象:県内企業で働いている女性

(このまま働き続けることや仕事と家庭の両立に悩む方)

講師:株式会社 プラウド 代表取締役社長 山本 幸美 氏

部下(フォロワー)としてのチームワークの築き方・段取り、仕事のやり方を変えるコミュニケーション、仕事の効率化のノウハウ、なりたい自分の姿を描くためのキャリアビジョン形成 など、これから継続して働く上で必要なスキルをワークも交えながら伝授いただき、参加者からも心が軽くなった、仕事でもプライベートでもすぐに実践したいという声が聞かれた。



(↑)セミナー当日の様子(集合形式)

(←)セミナーチラシ

### 滋賀の女性を元気にする交流会

日時:令和6年1月26日(金) 14:00~17:00

場所:滋賀県庁新館7階大会議室

対象:県内企業・自治体に勤める管理職、管理職候補などの女性

内容:県内で活躍する女性管理職による事例発表、交流会

<ファシリテーター>

たねやグループ 経営本部 しあわせ推進室 室長 田原 佳代 氏

<事例委発表者>

(株)平和堂 教育人事部 採用課 課長 谷田 奈美江 氏

甲賀高分子(株) 営業管理課 課長代理 三上 麗美 氏

仕事と家庭の両立やマネジメントに悩む女性管理職の事例発表により、新たな気づきを得るとともに、昨年よりも交流回数および時間を増やし、組織の枠を超えた交流を積極的に促した。参加者満足度も各プログラムで9割を超え、多くの参加者の気づきにつながった。



(←)交流会チラシ  
交流会ホンネチラシ  
(↓)交流会当日の様子

